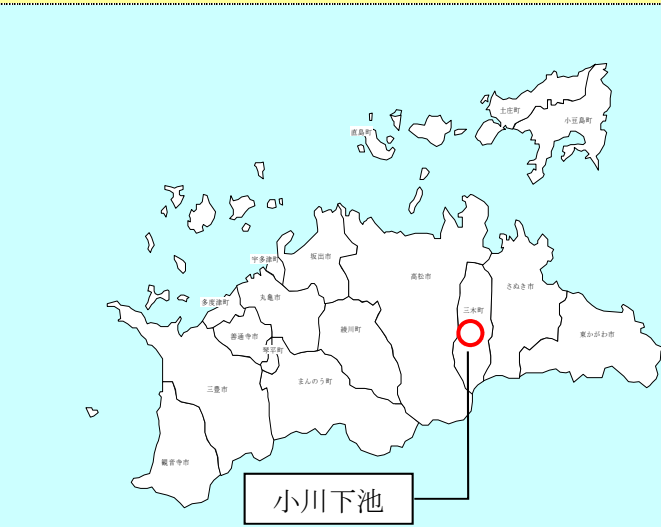


小川下池（こかげいけ）



諸元

貯水量	600 千m ³
満水面積	7.3 ha
受益面積	156.3 ha
堤高	25.9 m
堤長	17.7 m

小川下は集落名で、もとは大雨の時に削られやすい土地という意味で小欠ケと言われていました。水を溜めて池を作るのに適した土地でしたが、高い堤を築くための技術や労力、費用の関係から、ため池築造は見送られていました。ところが、昭和14年(1939年)の大日照りをきっかけに、人々はついにため池築造を決断し、小川下池耕地整理組合を作り、氷上村選出の県会議員高重逸太郎が組合長となって県に強く働きかけを行いました。当時は日中戦争の最中でしたが、食糧増産は県の施策であったため、翌年10月から県営事業として始まりました。戦争が拡大するにつれ物資・人手ともに不足しましたが、池を作り食糧増産の役に立ちたいという地元の熱意が県を動かし、女性や子ども、年寄りから遠方の綾歌・香川・大川群の人々までが工事に参加しました。工事は戦後も続けられ、昭和26年(1951年)3月に用排水路を含む全ての工事が完了しました。

人々の熱意と努力で出来上がった小川下池ですが、昭和51年(1976年)の香川用水の通水によって下流の各池が香川用水の供給を受けるようになり、水不足に悩まされることは減りました。昭和48～52年(1973～1977年)に部分改修が行われ、平成18～19年度(2006～2007年度)に国営総合農地防災事業により全面改修が行われており、現在も大切に守られています。



小川下池



竣工記念碑と改修記念碑